

第2回 全国在宅医療・介護連携フォーラム

日時：平成27年10月16日（金）

場所：アットビジネスセンター東京駅八重洲通り

在宅医療・介護連携を進めるために ～高島市の取り組み～

高島市健康福祉部地域包括支援課
（地域包括支援センター）

主監 （保健師） 古谷 靖子

高島市の概要

海津大崎
桜並木

萩の浜

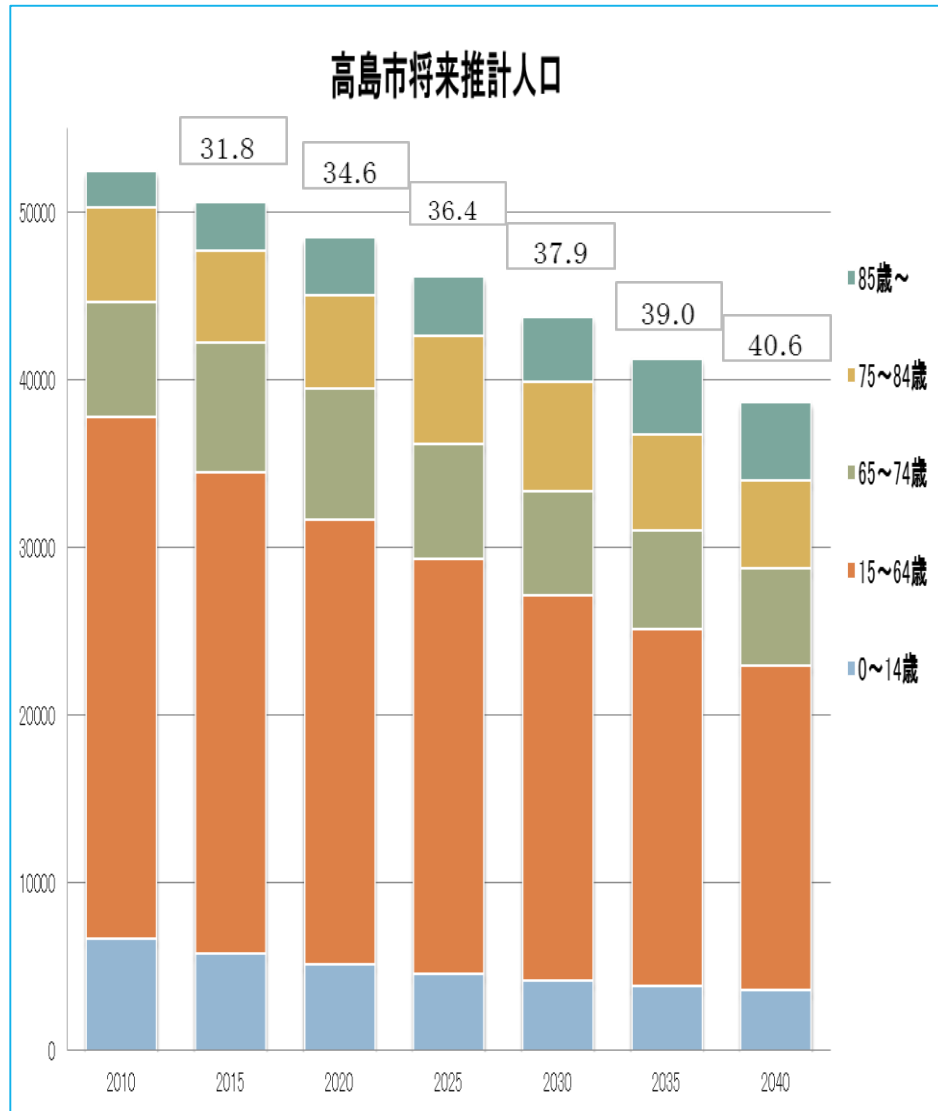
メタセコイヤ
並木



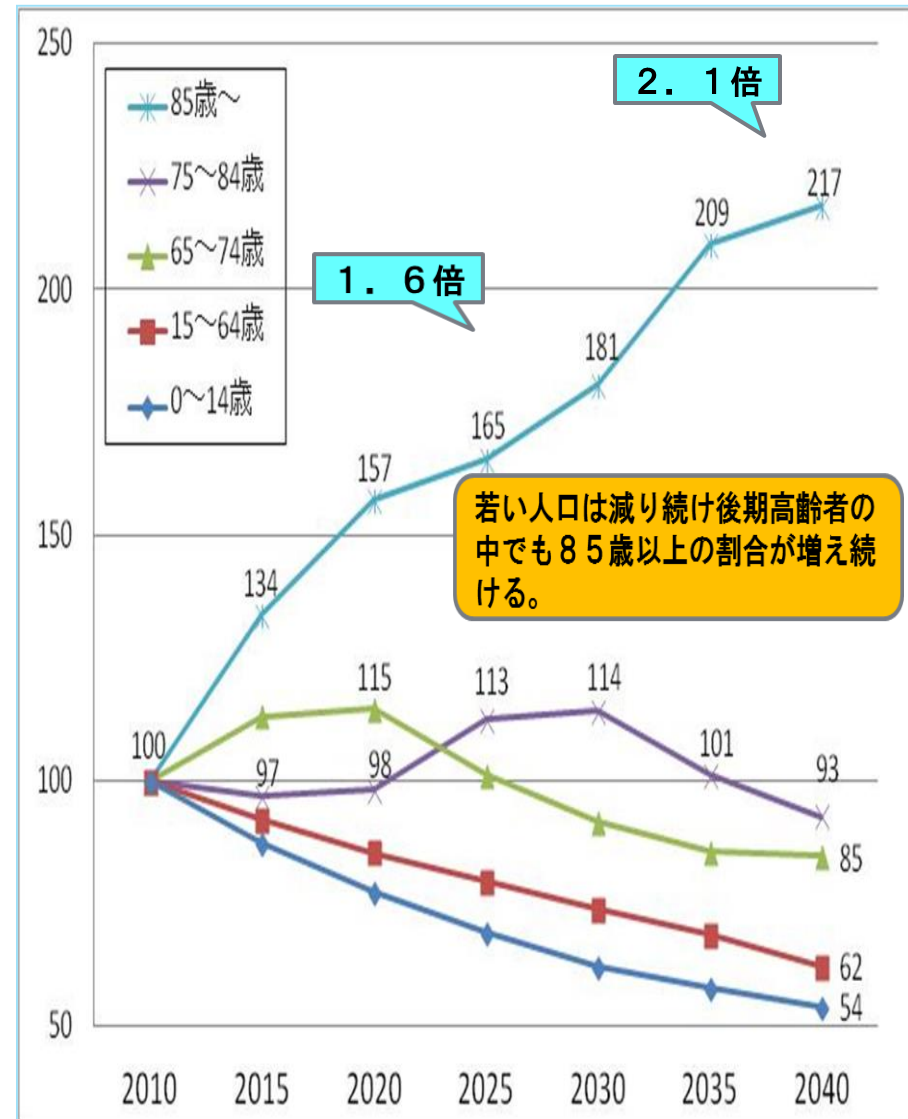
面積	693平方キロメートル
総人口	51,222人 H27. 8月末
高齢者数	15,973人 (31.2%)
後期高齢者	8,400人
世帯数	20,213世帯 H27. 8月末
高齢者単身世帯	1,694 H22年国勢調査
高齢者夫婦世帯	3,396 H22年国勢調査

高島市の現状

少子高齢化が加速



高島市における年齢階級別人口の伸び率の推移 (2010年を100とした場合)



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

高島市の社会資源の状況

医療資源		介護資源	
高島市民病院 マキノ病院 今津病院	(急性期医療) (急性期から慢性期) (医療療養施設) (回復期・障害者病棟) (在宅支援病院)	通所介護 通所介護 (認知症対応型)	19カ所 3カ所
診療所	29カ所 (内科 21カ所) (在宅支援診療所 7カ所)	訪問入浴 通所リハ	2カ所 3カ所
歯科診療所	20カ所 (訪問歯科診療 20カ所)	短期入所生活介護 短期入所療養介護 特定施設入所者生活介護	5カ所 2カ所 1カ所
調剤薬局	24カ所	福祉用具貸与 特定福祉用具販売事業所	3カ所
訪問看護ステーション 訪問リハビリテーション	4カ所 3カ所	介護老人福祉施設 介護老人保健	6カ所 2カ所
居宅介護支援 訪問介護	18カ所 12カ所	小規模多機能型居宅介護 グループホーム	8カ所 9カ所

高島市の現状

強み

- ・1市、1医師会、1保健所、1社協である。
- ・在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問歯科診療を行っている医療機関がある。
- ・市内3病院がそれぞれの役割機能を活かし顔の見える連携を行っている。
- ・高島市医療連携ネットワーク運営協議会で月1回定例会が開催され、意見交換や情報共有ができる基盤がある。
- ・高島市医師会と歯科医師会の連携がとれている。
- ・地域では「見守りネットワーク活動」が展開され、見守り体制がとられている。
(82/204 区・自治会)
- ・地域の企業(民間事業所など)と行政の間で「見守りネットワーク協定」が締結されている。

弱み

- ・病院に従事する医師、看護師、OT、STの人数が県の割合と比較して少ない。
- ・一般病床、療養病床は県の割合と比較して少ない。
- ・精神科病床がない。
(精神科常勤医がない)
- ・多職種の情報共有の場や機会はあるが、参加するメンバーは役員等に固定しがちである。
- ・現場のレベルの個々の連携が浅い。
- ・PT、OT、ST(言語聴覚士)は職能団体組織がない。

「在宅医療・介護連携推進事業」に取り組むまでの経過

医療と介護の連携における課題

平成19年度

- ・ 主治医連絡票の作成（ケアマネ協）

- ・ 患者の担当ケアマネの顔がわからない【医師】
- ・ 医師は敷居が高い。
- ・ 医師との連携の仕方がわからない。【ケアマネ】

平成20年度

- ・ 湖西認知症ケアネット

- ・ 市内の病院からの退院連絡が急にあり、対応が困難となる。
- ・ 市外病院との連携が困難。
- ・ 病院から退院する際、地域の相談窓口が解らない。

平成23年度

- ・ 高島市医療連携ネットワーク運営協議会発足

- ・ 在宅医療などに関する既存の会議は、各関係機関で行われているが、出席されるメンバーはいつも同じであるため、個人への負担が大きい。
- ・ 市民や各関係者の在宅医療などに関するニーズ（実態）把握ができていない。

平成26年度

- ・ 高島市在宅医療推進事業

- ・ 在宅医療推進に関しての市の課題の分析や整理ができていない。
- ・ 高島市の各関係機関が、在宅医療に関する課題やその解決に向けた取り組みについて共有できていない。

平成26年度
高島市在宅医療推進事業
（滋賀県在宅医療推進地域モデル事業）
に取り組みました。



平成26年度 高島市在宅医療推進地域事業

在宅医療の課題および取組み

「在宅医療を担う市内医療機関と市外医療機関との連携」 「地域内のネットワーク強化による医療機能の維持」

A. 会議の開催

(高島市医療連携ネットワーク運営協議会)

- ・地域リーダー連絡会議
- ・多職種連携地域ケア会議
- ・在宅ケア推進会議
- ・高島市医師会連携調整会議

B. 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

- ・在宅療養に関する実態調査
- ・実態調査ワーキンググループ会議
- ・在宅療養・認知症関連資源マップリーフレット作成

C. 研修の実施

- ・在宅医療介護連携従事者研修会
- ・介護保険関係者向け研修会
- ・事例検討会および実践報告
- ・医師と多職種の懇談会

E. 地域包括支援センター・介護支援専門員を対象にした支援の実施

(高島市医療連携ネットワーク事務局)

F. 効率的な情報共有のための取組み

(淡海あさがおネット)
(介護支援専門員から主治医への連絡票)

G. 地域住民への普及・啓発

- ・在宅療養看取りに関するシンポジウム
- ・広報、リーフレット等の配布



地域リーダー

(滋賀県地域リーダー養成研修受講者)

地域リーダー活動目標

住民・専門職・行政「**自らが動き、つながる街**」

- ◆高島市医療連携ネットワーク運営協議会に自分たち仲間の参加を促す
- ◆知識・情報の共有化

高島市医師会

高島市訪問看護ステーション

高島市歯科医師会

湖西介護支援専門員連絡協議会

高島市薬剤師会

高島保健所

長寿介護課OT

地域包括

高島市医療連携ネットワーク運営協議会

役割機能

- ◆市内外の医療連携
- ◆地域包括ケアにおける医療分野の課題や施策検討

高島市医師会

地域連携室(3病院)

高島市歯科医師会

市内訪問看護ステーション(4か所)

高島市薬剤師会

湖西介護支援専門員連絡協議会

高島保健所

高島市介護サービス協議会

健康推進課

社会福祉課

健康いきいき応援センター(地域包括・保健)

医療福祉を推進する高島地域協議会

役割機能

- ◆地域を支える医療福祉・看取りプロジェクトの推進
- ◆高島地域医療福祉ビジョンに基づく医療福祉関係機関団体・住民等との協働による医療福祉体制の構築(認知症うつ部会、在宅医療看取り部会)

高島市医師会

高島市社協

高島市福祉施設協議会

市内3病院

湖西介護支援専門員連絡協議会

高島市歯科医師会

高島市介護サービス協議会

介護者の会

高島市薬剤師会

高島市民生児童委員協議会

地域自治会

高島市健康推進員協議会

高島市健康福祉部

高島保健所

訪問看護ステーション連絡協議会第7地区支部

釜石市保健福祉センター

在宅医療の
拠点



保健福祉センター屋上からの風景



地域リーダー
5名で行き
ました！！

津波はここま
での高さまで
来ました。



在宅医療連携拠点チームかまいしの取り組みを聞いて

(一部抜粋)

【高島市で実現したいこと】

・一次連携(職能団体における連携)の充実。

医師会、訪問看護ステーション、3病院との連携は進んでいるが、 歯科医師会、介護支援専門員、薬剤師、訪問リハビリとの連携がまだまだ不十分。各団体との話し合いを通じてそれぞれの課題抽出を図ることが必要。

・高島市医師会が在宅医療コーディネーターとして協力することを検討していく。

・高島市におけるリハ職の結束を強化したい。

会議関係

会議名	①開催回数	②構成メンバー	③主旨
在宅医療連携検討会議	① 年1回開催 ② 各医療介護関係機関代表者および市関係部署で構成 ③		・高島市における在宅医療介護連携推進に向けた課題と解決策について ・各関係機関代表者と協議し今後の取り組みの方向性について共有
在宅ケア推進会議	① 年2回開催 ② 地域リーダーと市関係部署で構成 ③		在宅医療介護連携の推進について市としての方向性を協議
地域リーダー連絡会議	① 年3回開催 ② 滋賀県の地域リーダー養成研修受講者で構成 ③		高島地域の在宅医療介護の連携や目指す方向性を検討
高島市医師会連携調整会議	① 年5回開催 ② 医師会と地域包括支援センターで構成 ③		在宅医療介護連携拠点の設置についての協議
多職種連携地域ケア会議	① 年8回開催 ② 在宅医療・介護関係者の多職種で構成 ③		ケアマネから提供された事例について検討し、地域課題を導く
在宅医療に関する実態調査ワーキンググループ会議	① 年2回開催 ② 調査対象の専門職と市民で構成 ③		実態調査結果を基に連携上の課題について意見交換

多職種連携地域ケア会議

Aさん事例の紹介

- ・Aさんや家族の意向
- ・介護支援専門員の意向
- ・解決すべき課題

事例についての質問

- ・介護支援専門員が課題と感じているところの整理

専門職の助言・アドバイス

事例を通して地域課題抽出

- ・在宅医療介護連携上の課題
- ・サービス体制の課題等



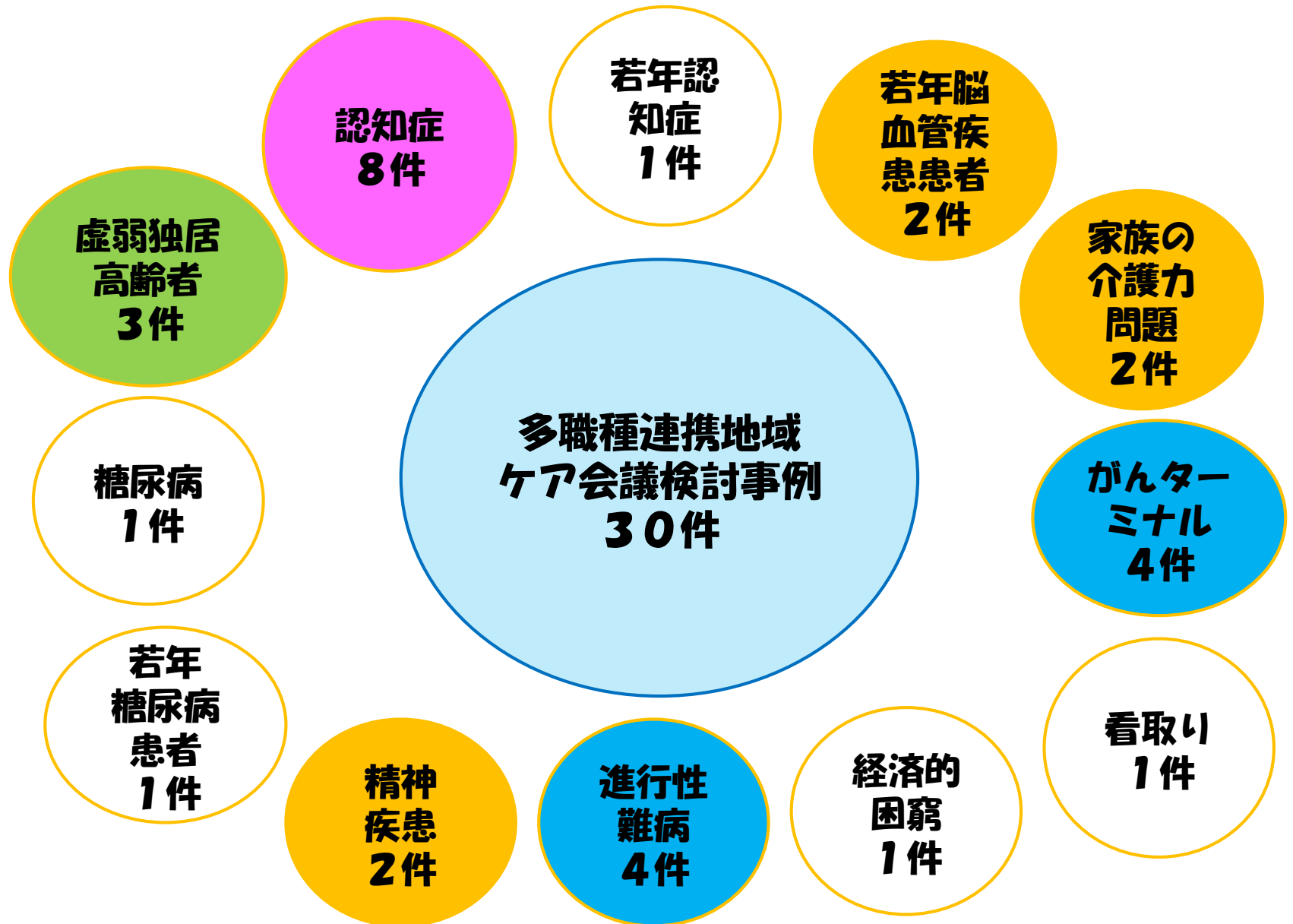
- ・介護支援専門員、地域包括、作業療法士の同行訪問
- ・介護支援専門員から地域連携室に主治医面談の調整を依頼
- ・地域ケア会議の開催

在宅ケア推進会議

地域に必要な社会資源・ネットワーク構築について施策化に向けて検討

在宅医療に関する地域課題

【多職種連携地域ケア会議より】



在宅療養に関する地域課題と解決策

【多職種連携地域ケア会議の結果より】

【認知症の方への支援】

- ・医療と介護の連携において、伝える(相談する)ポイントがわからない。
- ・認知症の方の健康管理における連携(服薬支援など)。
- ・認知症の方の運転に関する問題。



地域住民を含めた地域ケア個別会議の開催

認知症連携パスの整備

在宅医師、訪問看護の力量アップと連携強化

【精神疾患患者の支援】

- ・市内に常勤の精神科医師がいないため、病状不安定時の支援が困難となる場合が少なくない。



医師の人材確保

地域住民を含めた関係者が、本人や疾患に対して理解し、協力できる体制づくり（地域ケア個別会議や学習会など）

在宅療養に関する地域課題と解決策

【多職種連携地域ケア会議の結果より】

【がんターミナル患者への支援】

- ・急変時の対応への不安。(スムーズな連携をするために)
- ・市外医療機関(入院)から市内医療機関(外来)へのスムーズな移行支援。
(患者の理解が伴わない)
- ・患者や家族の理解が得られず早期に医療系サービスを導入する事が困難な場合がある。



市民啓発

入退院時(早期)の病院との連携体制整備

【退院支援に向けた連携】

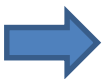
- ・ケースワーカーが中心となり、退院カンファレンスの構成メンバーの検討・招集や今後の支援の方向性まで明確にすることが必要。



地域連携室を介した退院カンファレンスの定例化

【看とり期を迎えるための支援】

- ・家族の介護負担の軽減。 ・施設での看とりの今後の課題。
- ・本人が元気な時に、本人の思いを家族や支援者が知ることが必要



専門職への看とりに関する学習の機会と市民への啓発

在宅療養に関する地域課題と解決策

【多職種連携地域ケア会議より】

【進行性難病ケースへの支援】

- ・難病には嚥下障害が多いが、STやOTの人材が少ない。
- ・医療職以外の専門職は病気の理解が困難。（医療との連携が不十分になりやすい）



摂食嚥下に関する相談窓口や支援チームの設置

医師とケアマネジャーの連携による勉強会の開催

【朽木地域の課題】

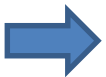
- ・朽木地域の医療および介護資源が不足しており、住民が支援を受けにくい。



朽木診療所との連携体制の構築

【薬剤師との連携】

- ・薬剤師の在宅患者支援のシステムや連携方法について知らないことが多い。



他職種が薬剤師の在宅療養における役割を知るための研修会

顔の見える関係づくり(研修会)

在宅医療介護連携従事者研修会

【H26. 12/19】

講演会 「地域魚沼学校の取り組み

～新潟県魚沼地域における住民とともに作る地域包括ケア～」

講師 地域医療魚沼学校長(新潟県立小出病院院長) 布施 克也 氏

71名出席

【H27. 1/31】 多職種参加によるグループワーク

「わがまちの在宅医療を推進する上での課題」

47名出席

介護保険関係者研修会

【H27. 1/27】

講演会 「在宅療養を支える」 ～よりよい連携のために～

講師 NPOみなくち訪問看護ステーション所長 駒井 和子氏

38名出席

認知症ケア多職種連携研修会

認知症支援に関する事例検討

～レビー小体型認知症の方への支援について～

講師 藤本クリニック 藤本直規医師 奥村 典子 看護師

【H26. 12/18】 24名出席

【H27. 3/12】 28名出席

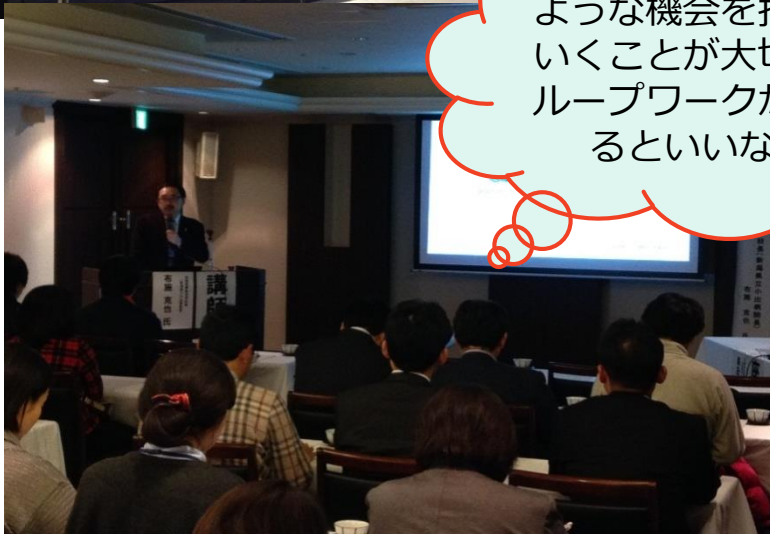
在宅医療介護連携従事者研修会・交流会

研修会

住民を巻き込んだ在宅医療が高島でもできればいいと思った



多職種で学べるこのような機会を持つていくことが大切。グループワークができるといいなあ



交流会

いろいろな人と顔見知りになれてよかった



多職種で集まることは初めて！名刺交換もできてよかった



平成27年1月31日

在宅医療介護連携従事者研修会

1. KJ法で課題を挙げる
「わがまちの在宅医療を
推進する上での課題」

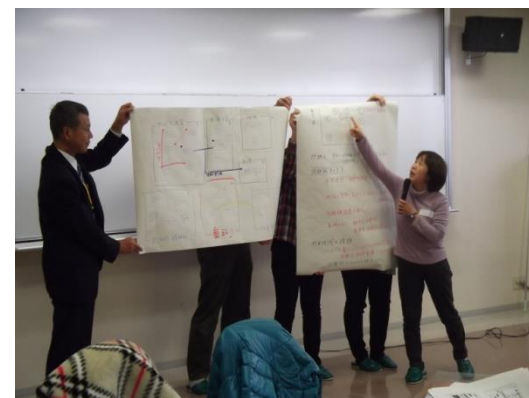


2. 課題の解決策について
討論する

- ・各職種でできそうなこと
- ・他職種と連携して取り組め
そうなこと
- ・市民を巻き込んで出来そう
な事など……

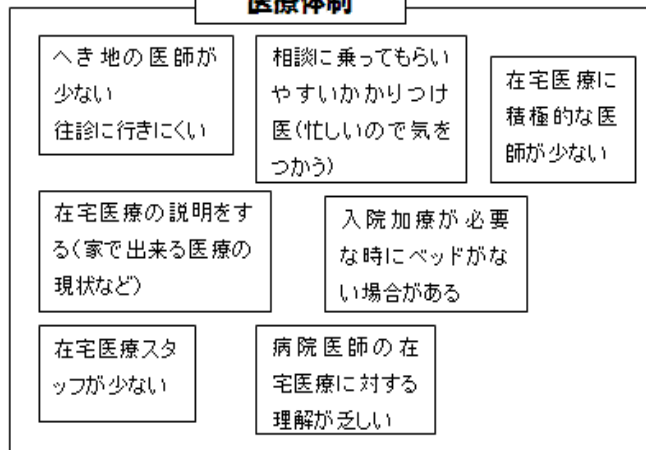


3. グループ発表
緊急度・重要度
から優先課題を
選ぶ

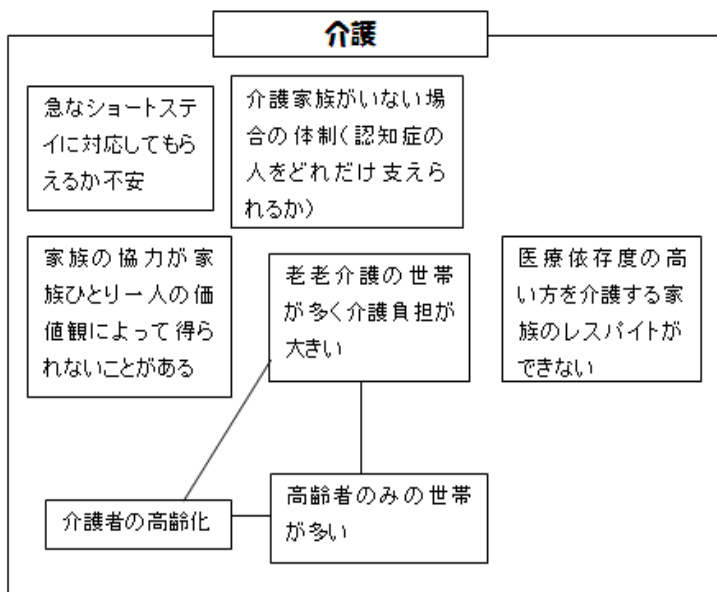


3グループ

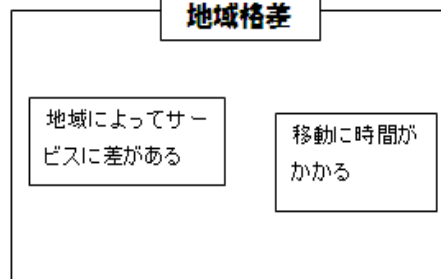
医療体制



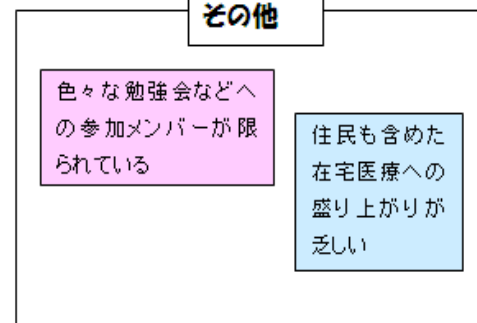
介護



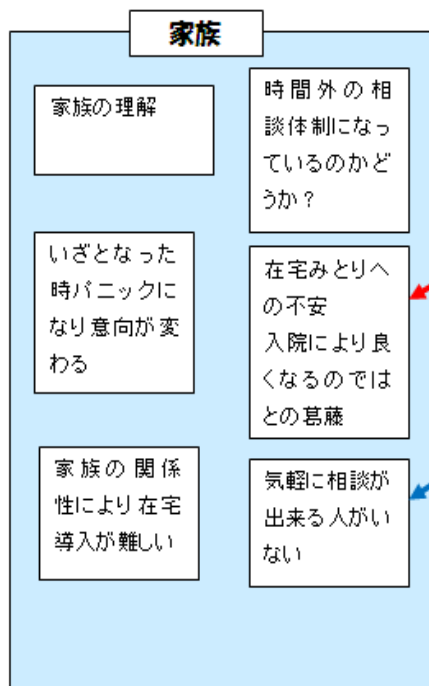
地域格差



その他



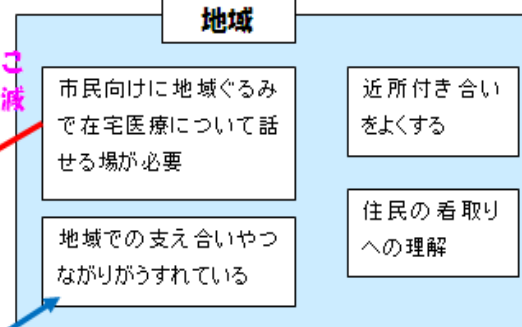
家族



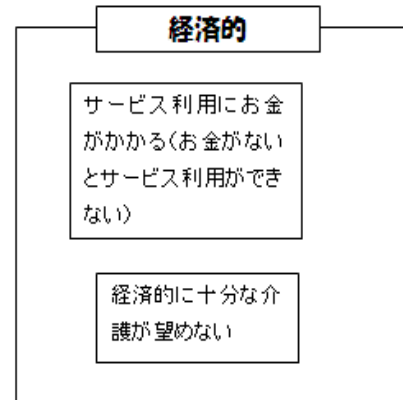
体験談をすることで不安が軽減できるかも

絆が深まれば相談しやすい

地域



経済的



家族地域住民に対してバックアップ体制を説明し、理解を求める

課題解決策

多職種での初めてのグループワーク！
盛り上がりました！！

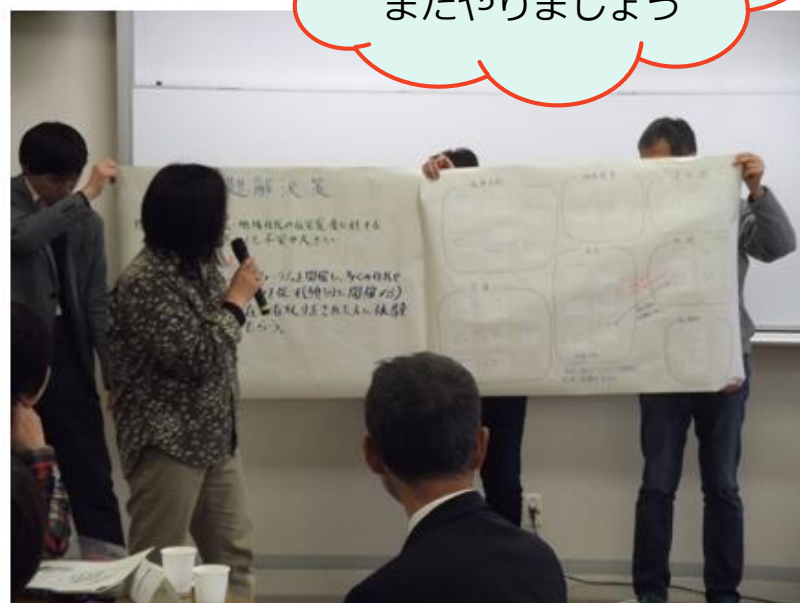
<問題点>

家族・地域住民の在宅医療に対する漠然とした不安が大きい

<課題解決の方法>

- ・小地域ごとにフォーラムを開催し、多くの住民や専門職の参加を促す
(頻回に開催する)
- ・実際に在宅看取りをされた方に体験談を語ってもらう。

はじめはどうなる
かと思ったけど
楽しかった！
またやりましょう



在宅療養に関する地域課題と解決策

【平成26年度在宅医療介護連携従事者研修G・W結果より】

《家族・地域住民の在宅医療に対する漠然とした不安がある。》

《住民の在宅医療のイメージ不足》

《市民がいつまでも地域で生活し続けられることを知らない》

小地域毎のミニフォーラムの開催（看取り体験）

市民啓発（在宅医療のシステム・専門職の役割など）

介護体験者との交流

在宅療養を支えるシステムづくり
（相談窓口・会議・研修・人材育成）

地域住民と地域でできることを考える

《職種間の理解と連携》

一つの職種の学習会に多職種を招いて意見交換する

多職種間での情報交換（地域住民を巻き込む事も必要）

平成26年度 在宅療養に関する実態調査

【調査対象】

- ① 診療所・病院医師
- ② 歯科医師
- ③ 薬剤師
- ④ 訪問看護ステーション
- ⑤ 地域連携室
- ⑥ 居宅介護支援専門員
- ⑦ 施設介護支援専門員
- ⑧ 市民

(40歳以上の市民 200人)

【回収率】

90.	3%
90.	0%
81.	8%
100.	0%
100.	0%
86.	2%
73.	3%
48.	0%



実態調査から見たもの(一部抜粋)

- ・ 医師、歯科医師、薬剤師の多くが在宅医療をするには**関係職種**の理解が必要である。また、在宅医療は**時間的拘束の負担**が大きいと回答。
- ・ 訪問診療を行っている医師の半数以上が、「**摂食嚥下障害のリハビリ指示**」「**中心静脈栄養の管理の対応**」が**困難**と回答。また朽木地域などへき地への訪問が**困難**と回答。
- ・ 「**病院医師との連携をどう図るか**」が**課題**と回答された職種が多い。
- ・ 地域連携室の多くが**入院初期に病棟看護師と医療ソーシャルワーカーの連携が必要**と回答。
- ・ 地域連携室と介護支援専門員の多くが**入院初期の連携が必要**と回答。
- ・ 地域連携室と介護支援専門員の多くが在宅医療・介護サービスの充実のためには、**家族親族の理解や協力が必要**と回答。
- ・ 地域連携室および薬剤師の多くが現在、お互いに「**気軽に相談できる相手がない**」「**今後連携できる体制づくりが必要**」と回答。
- ・ 介護支援専門員の多くが、在宅医療・介護サービスの充実のためには、**医療処置の必要な患者でも利用できるショートステイが必要**と回答。
- ・ 市民の多くが、在宅医療・介護サービスの充実のためには、「**介護してくれる家族**」「**療養できる住環境**」「**24時間いつでも看てもらえる体制**」が必要と回答。

1. 連携を充実させたい職種について

①介護支援専門員連絡協議会

医師との顔の見える関係づくりをますます充実させたい。

②訪問看護ステーション

医師とのコミュニケーションはしっかりできている。リハビリ職が足りていないので充実してほしい。

③歯科医師会

地域連携室や訪問看護との連携充実化。

④高島市医療連携ネットワーク運営協議会

介護支援専門員との連携充実化。来年度より歯科医師会、薬剤師会の会議への参画により顔の見える関係づくりを行う。

⑤施設

施設として地域包括ケアシステムの中で何ができるのか考えていきたい。

⑥薬剤師会

マンパワー不足が現状。医師との連携が主になるので充実させていきたい。

⑦介護サービス事業者協議会

積極的に他の職種との連携を図っていく事ができるように取り組みたい。

⑧その他

関係者の連携充実とともに地域のコミュニティーづくりが重要である。



2. 職能間連携を効果的に行うために ～岩手県釜石市の連携事業を参考に考える～

①高島市は釜石市でいう3次連携（連携会議）は行っている。各職種の役割を知り、連携できるような取組は効果的であると思われる。

②在宅医療関係者だけでなく地域を巻き込んでいく事が必要。地域での啓発に在宅医療関係者も参加し取り組んでいく。

在宅医療推進モデル事業に取り組んだ効果

- ・在宅医療に関する地域課題が明確になり、多職種の合意のもと、課題解決に向けた体制が具体化した。



在宅医療推進事業の基盤へとつながった

- ・高島市医療連携ネットワーク運営協議会への歯科医師、薬剤師、リハ職など、**多職種の参加につながった。**
- ・医師会の後方支援のもと、**リハ職が組織化へと動き出した。**
- ・**各職種間で独自に顔の見える関係づくりのための取り組みが始まった。**
- ・医師を中心とした医療や介護関係者が地域へ出向く**出前講座**が計画された。

目標(平成27年度～平成29年度)

医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続ける事ができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携し、多職種協働により包括的、継続的な在宅医療を一体的に提供できる体制構築に向け基盤整備を行う。

平成27年度事業目的

- ①市内の医療・介護・福祉関係者の顔の見える関係を深める。
- ②在宅医療推進に向けた取り組みを多職種協働のもと取り組む。
- ③在宅療養について市民に啓蒙し、地域で支える仕組みづくりにつなげる。
- ④在宅医療・介護の連携に関する地域課題を明確にし、その解決に向けた取り組みの方向性を検討する。

(ア)地域の医療・介護の資源の把握

- ・地域の医療機関、介護事業者等の所在地、連絡先、機能等の情報収集
- ・地域の医療・介護資源マップ、認知症ケアパス(認知症相談ガイドマップ)の活用および情報の更新

(ウ)切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ・高島市医療連携ネットワーク運営協議会
- ①フォーラム 11/11
- ②精神疾患患者支援に対する連携【講演会】

(オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ・医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置
- ・地域の在宅医療と介護の連携を支援する相談窓口の運営
- ①ホームページ作成

(カ)医療・介護関係者の研修

- (1)在宅医療介護連携従事者研修会【講演会】①連携推進について
- ②在宅ホスピス【視察研修】
- 【多職種連携セミナー GW形式】
- (2)介護保険関係者研修会(摂食・嚥下機能障害)
- (3)1次連携、2次連携事業

(イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ・多職種連携地域ケア会議(年8回)
- ・地域リーダー連絡会議(年4回)
- ・在宅ケア推進会議(年2回)
- ・医師会連携調整会議(年3回)

(エ)医療・介護関係者の情報共有の支援

- ・情報共有支援【事例検討会】
- ・情報共有ツールの作成
- ・情報共有ツールの導入支援と活用状況の把握
- (淡海あさがおネット)
- (ケアマネから主治医への連絡票)

【個別ケース支援】

- ・退院の際の地域の医療関係者と介護関係者の連携の調整
- ・患者又は家族の要望を踏まえた地域の医療機関等・介護事業者の紹介

(キ)地域住民への普及啓発

- ・在宅療養や看取りに関する講演会
- ・医療・介護関係者との連携による地域毎の小規模講演会等の開催

(ク)在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

地域リーダー(滋賀県地域リーダー養成研修受講者)

地域リーダー活動目標

- 住民・専門職・行政「**自らが動き、つながる街**」
- ◆在宅医療・介護連携推進に関する具体的な取り組みの検討や調整を行う。
- ◆多職種連携地域ケア会議より抽出された在宅医療や介護に関する地域課題の解決に向けて検討する。

高島市医師会	訪問看護ステーション
高島市歯科医師会	湖西介護支援専門員連絡協議会
高島市薬剤師会	高島保健所
	健康推進課
地域リハビリ	地域包括支援課

高島市医療連携ネットワーク運営協議会

役割機能

- ◆市内外の医療連携
- ◆地域包括ケアにおける医療分野の課題や施策検討

高島市医師会	地域連携室(3病院)
高島市歯科医師会	市内訪問看護ステーション(4か所)
高島市薬剤師会	湖西介護支援専門員連絡協議会
高島保健所	高島市介護サービス協議会
健康推進課	社会福祉課
地域包括支援課(地域包括支援センター)	

医療福祉を推進する高島地域協議会

役割機能

- ◆地域を支える医療福祉・看取りプロジェクトの推進
- ◆高島地域医療福祉ビジョンに基づく医療福祉関係機関団体・住民等との協働による医療福祉体制の構築

高島市医師会	高島市社協	高島市福祉施設協議会
市内3病院	湖西介護支援専門員連絡協議会	
高島市歯科医師会	高島市介護サービス協議会	介護者の会
高島市薬剤師会	高島市民生児童委員協議会	地域自治会
高島市健康推進員協議会	高島市健康福祉部	高島保健所
訪問看護ステーション連絡協議会第7地区支部		

《高島市 在宅医療・介護連携推進事業目標（平成27年度～29年度）》

○医療や介護が必要な高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携し、多職種協働により包括的、継続的な在宅医療・介護を一体的に提供できる構築に向け基盤整備を行う。

平成27年度事業推進イメージ

医師会主体

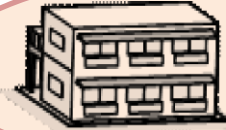
(ウ)切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ・地域の医療・介護関係者による会議の開催

(オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ・医療・介護関係者の連携を支援する相談窓口の運営(コーディネーターの配置)
- ・関係者からの相談への対応
- ・地域包括支援センターとの連携

高島市医師会



連携

協定締結

高島市
(包括支援センター)



市主体

(ア)地域の医療・介護の資源の把握

- ・地域の医療・介護資源等の情報収集およびリストやマップの活用・更新

(イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策への検討

- ・多職種連携地域ケア会議
- ・地域リーダー会議
- ・在宅ケア推進会議
- ・医師会連携調整会議

(ク)在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

協働

(エ)医療・介護関係者の情報共有の支援

- ・情報共有ツール作成と活用・淡海あさがおネットの活用

(カ)医療・介護関係者研修

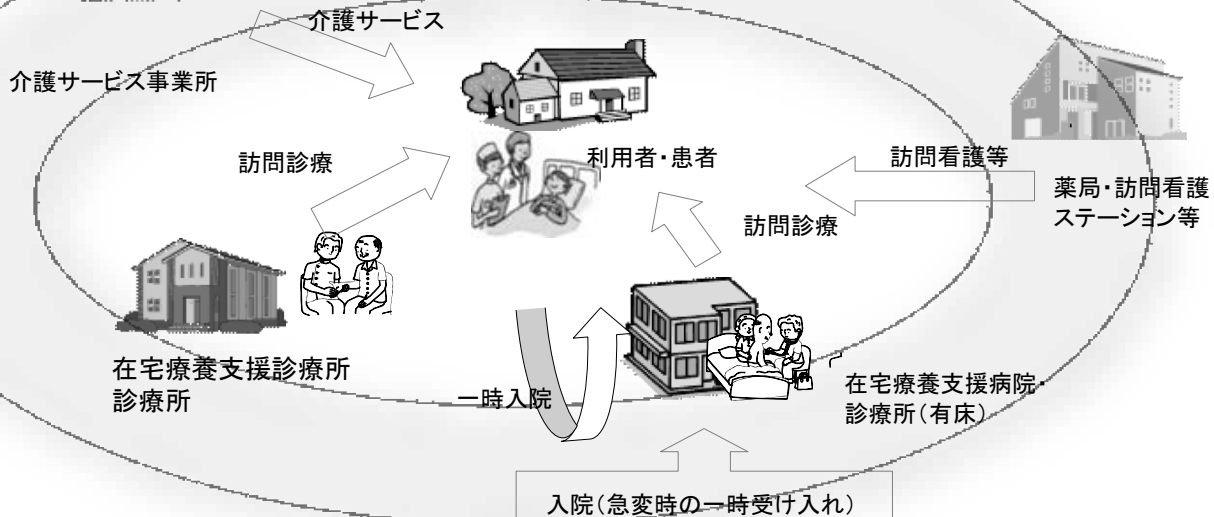
- ・在宅医療介護従事者研修会・介護保険関係者向け研修会等

(キ)地域住民への普及啓発

- ・在宅療養や看とりに関する講演会・地域毎小規模講演会等

関係機関の連携体制の構築支援

滋賀県
滋賀県
(後方支援・広域調整等)



平成27年度 高島市
在宅医療・介護連携推進事業の全体像

会議

医療福祉を推進する
高島地域協議会
(高島健康福祉事務所主体)

高島市医療連携ネット
ワーク運営協議会
(医師会主体)

在宅ケア推進会議
(3次連携)

役割:在宅医療に関する地域共通
の課題解決や2025年を見据えた
施策化に向けて検討
(高島市主体)

研修会

(市と医師会主体)

介護保険従事者
研修会

在宅医療介護
連携従事者研
修会

- ケア力向上に
に向けた実践

- 医療と介護の
連携充実化
- 顔の見える関
係づくり

地域リーダー連絡会議

役割:①在宅医療と介護の連携に関す
る具体的な取組みの検討や調整
②在宅療養に関する地域課題について
検討
(滋賀県で養成された地域リーダー)

医師会連携調整会議

役割:高島市在宅医療介護連
携拠点の運営や事業に関する
調整・検討
(医師会・包括)

在宅療養・看取りに関
する市民啓発

- 講演会
- 地域小規模講演会

在宅療養および多職種連携
に関する地域課題の抽出

1次連携
(1職種)

2次連携
(職種間)

多職種連携
地域ケア会議

連携

連携

連携

共催



共催

企画

企画

平成27年度第1回在宅医療介護連携従事者研修会

日時：平成27年9月11日(金) 午後7時30分～9時30分

場所：今津サンブリッジホテル

内容：「チームかまいしの連携手法について

～チームかまいしの取り組みから地域包括ケアについて考える～

講師 医療法人社団KFC理事長／釜石ファミリークリニック

在宅医療連携拠点アドバイザー 寺田 尚弘氏

参加者
92名！！



チームたかしま
を作りますか？



多職種の連携が
お互いのニーズ
を把握した上で
連携が行われて
いたので有意義
だと思った



2次連携が
したい

「淡海あさがお
ネット」を有効
に使えるよう
にしたい



平成27年度 在宅療養出前講座

平成27年7月6日(月)
朽木 生杉地区
11名参加



平成27年8月29日(土)
安曇川 沖田地区
19名参加



医師・歯科医師
・医師会事務局
・保健師で地域
に伺いました

朽木診療所に新しい医師が着任され、出張診療もあり大変助かっている。

訪問診療
の対象者
はだれ？

費用はどの
くらいかか
るの？

話を聞いて
安心しました。

